

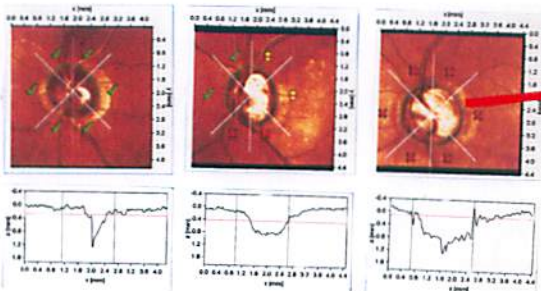
眼底三次元画像解析検査

- **眼底三次元画像解析**とは、検査装置に内蔵されたコンピューターが撮影した画像からデータを数値的に解析して、これまでの眼底検査では行えなかった、眼の奥にある網膜の**立体的な情報**を得るものです。これまでの眼底検査にこの検査を加えることにより、より**正確な診断**が行えるようになりました。眼底三次元画像解析法は主に、緑内障、糖尿病黄斑症、加齢黄斑変性症、黄斑円孔、黄斑前膜、網膜剥離などの病気の診断に用います。当院では次の2種類の検査を実施しています。

共焦点走査レーザー眼底鏡(HRT)

特殊なレーザーを用いて網膜表面の立体構造や視神経乳頭形状の立体観察を行います。

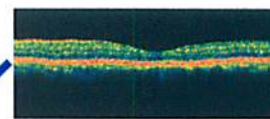
HRTで測定した視神経乳頭のへこみ



HRTは、へこみを測定し、数値的に評価します。緑色のマークは正常、赤色のマークは異常を示します。左は正常眼、中央、右は異常があります。

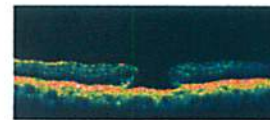
光干渉断層計(OCT)

特殊な光を用いて、外からは見ることができない網膜の断面を観察します。



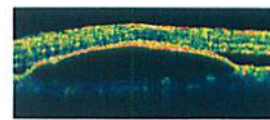
正常眼

黄斑部の中央になだらかなくぼみがあります。



黄斑円孔

黄斑部の中央に穴があいています。



加齢黄斑変性症

黄斑部が盛り上がっています。

- **眼底三次元画像解析**は、2007年1月から先進医療として保険診療との併用が認められ、当院も2007年4月からこの検査を行う施設として認定されてOCTとHRTの検査を実施してまいりました。これらの検査は、その有効性が評価され、2008年4月からは健康保険が適応されるようになりました。
- 当院では、これからも診療に有効な検査や治療法を取り入れ、患者のみなさんに提供してまいります。

担当：事務 菊地 明子